

平成 28 年度 定例会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、2016年(平成28年)9月16日に平成28年度の定例会を、北海道開発局小樽開発建設部の後援を頂き、小樽市の小樽港湾事務所会議室にて開催しました。今回は41名(うち日本技術士会会員：14名)の参加を得、当研究委員会の北原幹事の司会により進められました。

定例会は、小樽港湾事務所所長、今宗紀氏の開会挨拶を皮切りに、ご講演3件の内容にて開催しました。また、講演3件に先立ち現地視察として、小樽港クルーズならびに小樽港湾事務所資料館見学を行ったほか、定例会終了後には小樽市内にて意見交換会を開催しました。

以下にその内容をご報告します。

2. 現地視察

現地視察として、まず初めに、小樽港湾事務所所有の港湾業務艇『ひまわり』に乗船させて頂き、コンクリートを用いた日本初の本格的な防波堤であり、土木学会選奨土木遺産となっている小樽港北防波堤を見学するとともに、小樽港をクルーズして各埠頭の様子を視察しました。小樽港北防波堤は100年以上経過した現在においても、小樽港の第一線防波堤として機能しており、築造当時の技術力の高さ・先人の苦労や思いを改めて感じる事ができました。

クルーズ後、小樽港の築港に大きな役割を果たしてきた斜路式ケーソン製作ヤード及び隣接する2基の大きなクレーンを視察しました。クレーンは昭和10年に造られ、ケーソンを造る際の資材を運び上げるために使われたものです。しかし、老朽化により、この10月から解体作業が行われるとのことのお話で、時代の流れを感じながら、これまで活躍してき



写真-1 港湾業務艇『ひまわり』への乗船



写真-2 斜路式ケーソン製作ヤードとクレーン

たクレーンの見納めを行いました。

その後、小樽港湾事務所資料館へと場所を移し、屋内展示品を見学しました。資料館では、小樽築港の歴史や建設に係る資料に加え、約100年前にコンクリートの強度測定に用いた試験機など、貴重な資料や写真を見学しました。

最後に、現地視察では、小樽港湾事務所所長の今氏にご説明頂いたことを記し、感謝の意を表します。

3. 定例会(講演)

今回の定例会では、講演1「沿岸海域活断層の活動履歴を探る」、講演2「石狩湾産ニシン増大への道のり、そして今後」及び講演3「工学博士廣井勇と築港」の3件について講演をいただきました。

(1) 講演1「沿岸海域活断層の活動履歴を探る」

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 地質研究所資源環境部 沿岸地質グループ 研究主幹

内田康人氏からご講演を頂きました。

ご講演は、沿岸海域の活断層に関しては、陸域とは異なり、分布や規模、活動履歴などがほとんど把握されていないこと、能登半島地震(2007)などを契機に、国が沿岸海域の活断層調査を開始し、道内では6断層を調査することをご説明頂きました。

そして、海域活断層を調査することで、陸域の調査では分からなかった新たな情報(海域を含めた断層の長さや活動履歴)を踏まえた活断層の再評価を実施し、今後の地域防災計画への反映を目指すとのことをお話を頂きました。また、調査結果の一例として黒松内低地断層帯を紹介頂き、活断層の活動履歴は11,000~12,000年前と6,000~7,000年前の2回確認でき、また活動に伴う上下変位量は2~3m(先行イベントでは最大3~4m)であることをご説明頂きました。

(2) 講演 2「石狩湾産ニシン増大への道のり、そして今後」

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 中央水産試験場 資源管理部 資源管理グループ 研究主幹 星野昇氏からご講演を頂きました。

ご講演は、「一時期まったく獲れなかったニシンが、近年、なぜ獲れるようになってきたのか」との問い掛けから始まりました。ニシンは1897年の97万トンを超えて次第に減少し、1950年代後半には幻の魚と呼ばれるほど漁獲が減少したこと、そして北海道では1996年からニシンの資源増大対策として種苗放流を行い、現在では宗谷、留萌、石狩、後志の4総合振興局・振興局で合わせて毎年200万尾以上の稚魚が放流されている現状をご説明頂きました。

そして、ニシンは非常にダイナミックな資源変動をする魚であるため、放流後の死亡原因の解明や放流方法の改善などの研究を進め、放流効果の向上・安定化を目指していく必要があることをご講演頂いた。

(3) 講演 3「工学博士廣井勇と築港」

日本データサービス株式会社 顧問 関口信一郎氏からご講演を頂きました。

ご講演は、「なぜ誰も成し得なかった外洋防波堤建設を見事に達成できたのか」、「安定した生活に執



写真-3 講演中の内田康人氏



写真-4 講演中の星野昇氏



写真-5 講演中の関口信一郎氏

着せず、我が身を顧みず、難工事にあえて挑んだのか」、「人生において何を最も大切にしていたのか」と言った工学博士廣井勇の人物像から技術者としての理念までを幅広くお話し頂きました。

また、「廣井勇博士が港湾と橋梁の世界の権威と言われるようになったのか」、「我が国の近代土木工学の確立と発展にどのような影響を及ぼしたのか」についてご説明頂き、技術者として取り組むべき姿勢について、氏のお考えを交えながらご講演頂いた。

4. おわりに

各講演ともに参加者から熱心な質疑を頂いた。最後にお忙しい中、快くご講演をお引き受け頂いた各講師ならびに関係各位に心からお礼申し上げます。